

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：伊藤 康貴 作成日：2024年1月5日

1. 教育の責任

2023年度に新設されたメディア・社会学コースの科目を中心に、以下の科目を実施している。

春学期：社会学入門、社会を知る、社会調査法入門、キャリアデザインⅠ

秋学期：社会学入門、アンケート作成入門、キャリアデザインⅡ

2. 教育の理念

大学全体の建学の精神、目的、使命、カリキュラムポリシーおよび現代社会学部のカリキュラムポリシーにもとづき、現代社会の実態をとらえるための能力を養成するために、社会学の専門知識や考え方、モノの見方、そして社会調査の専門的技法に関する教育を実施し、ビジネスや研究、地域活性化などの分野で活躍できる人間の育成を目指す。

3. 教育の方法

社会学の専門知識や考え方、モノの見方を身につけるために、主に以下のような工夫を行っている。

- 1) 身の回りの日常から思考をはじめ（ミクロな視点から始める）
- 2) 歴史的な過程と社会的な構造を想像する（マクロな視点を持つ）
- 3) 自分の意見を表明し、他者と対話し、再び自分を振り返る

具体的には、いきなり遠い過去の話や理論的・概念的思考から始めるのではなく、学生の身近な事例から社会的な思考をはじめのように工夫している。たとえば家族について社会的に考える際には、自分の家族のことを振り返ったうえで、その家族が持つ特徴についてまとめ、それが社会的にどのような説明がつかのかを学んでいく。そしてそのような社会的な説明を受けたうえで、そのような家族が決して普遍的なものではなく、歴史的にどのように形成されたものであるのかを学び、あるいは現在の家族がどのような困難を抱えているのかを統計的・制度的にとらえることを通じて、現代社会における家族を客観的・俯瞰的にとらえる視点を養う。また、そういった学びのプロセスの中において、el-Campusのディスカッションや対面等で自分の意見をまとめ、表明し、かつ他者の意見に触れ、対話する機会を設け、現代社会の多様性と秩序を体感したうえで、その中で自分がどのような家族を選択し、どう生きるのかを振り返ってもらっている。

さらに、社会調査の技法を学ぶ際には、ICTを活用したアンケート調査票の作成や実施、身近な人へのインタビュー調査の実施、自分の日常生活の観察記録、新聞記事や会議録の分析を実際に学生各自が行い、体験的に技法が学べるような工夫を施している。

4. 教育の成果

授業アンケートにおいては概ね平均的な評価になったと思われるが、自由記述回答を参照すると、授業内容について理解がやや難しかったと思われる学生が存在するようである。授業見学でのコメントや学生からの意見を踏まえ改善していきたい。また、社会学に興味を持った学生からの質問もあり、授業時間の前後やオフィスアワーなどで随時対応している。

5. 改善への努力と今後の目標

授業の内容として量的に過大な点があると思われるため、内容を精査し、学生にとってより理解のしやすいものに改善していきたい。また現代社会を知ることと自分を知ることが密接につながっている点を踏まえた個人ワーク・グループワーク等の開発を継続し、研究やキャリア等において効果的な教育を行ってきたい。加えて、学外のNPO団体と協同し、学内の教育活動と関連した学外活動（ボランティア等）をはじめたいと考えている。

【添付資料】

授業シラバスおよび授業配布資料（スライド資料など）、el-CampusやTeamsでの配布物、GoogleフォームやMicrosoftフォームで作成した資料、NPO法人グローバル・シッピングスこうべリーフレット、NPO法人ダイバーシティサッカー協会アニュアルレポート